

## 安定生産ができる『YR晴信』の栽培のポイント

雪印種苗(株)  
園芸作物研究グループ  
野菜研究チーム 技術顧問 大沼文夫

### 1. はじめに

発売より4年目をむかえ、『YR晴信』の特性も各産地において確認され、定着して参りました。今後も、多くの方々に御愛顧をいただけるよう、『YR晴信』の新しい知見に基づき、特性と栽培のポイントを述べてみます。下記の特性を活用し、安定生産への御参考にしていただければ幸いです。

### 2. 『YR晴信』の主な特性

- 肥大性良く、耐病性強く栽培容易な、初夏どり、夏秋どり、秋冬どりのできる、晩抽性の寒玉品種です。
- 草姿は立性で、外葉はやや小さめですが、草勢は強く、葉色はブルームのかかった濃緑色となります。葉質は、寒玉特有の厚さがあり、やや硬めのタイプです。
- 球形は、ほぼ正円形となり、玉伸びは良く、初夏どりでは甲高となるものの、他はやや甲高の締まりの良い品種です。しかも、割れにくく、在圃性の優れた品種です。



▲ 長野県での『YR晴信』の栽培

- 根張りは強い方で、土質を選ばず栽培が可能で、耐密植性も極めて優れています。
- 耐病性は、萎黄病抵抗性で、黒腐病や黒斑細菌病に強く、栽培のしやすい品種です。また、耐寒性も強い方で、アントシアンの発生が少なく、平地での年内遅出しも可能です。



▲ 外葉がやや小さめの『YR晴信』



▲ 締りが良く加工用途にも向く『YR晴信』



▲ 『YR晴信』の箱詰め

### 3. 各作型の栽培のポイント

#### 【初夏どり】

関東平坦地では、11月～1月の播種が可能ですが、ハウス育苗となりますが、定植から順調に生育をさせるためにも、低温に馴化（馴らし）した苗を定植します。定植後は低温で苗の生育が抑制されますが、根は動いており、気温の上昇とともに、大きくなります。このため、追肥（即効性肥料）を早め（定植後20～25日）に行うことが重要です。追肥が遅れますと、外葉が大きくなり、玉太りが悪くなりやすいので注意してください。

#### 【夏秋どり】

東北、北海道、高冷地の作型で、播

種は3月下旬から可能ですが、定植後の初期生育を順調にするためにも、馴化を十分に行います。また、特に注意したい点は、密植栽培（6,000～7,000株/10a）される地域においては、基肥を10～20%多く施用する事です。また、東北・高冷地における8月どり等の、乾燥と高温が厳しい条件では内部黒変症（通称アンコ）の発生が懸念されますので栽培を避けて下さい。

#### 【秋冬どり】

関東から九州の平坦部で栽培が可能で、播種は7月中旬～8月上旬（九州は7月下旬～8月中旬）が適期です。唯一の注意点は、初期の生育を良くする事です。定植後の乾燥や老化苗の定

植は、初期の生育が悪くなりますので注意してください。割れにくく、在圃性が高いことを利用して加工用の栽培も可能です。

### 4. むすび

産地からの声として「安定して栽培でき、他の品種がダメなときでも、収量を上げることができた」と評価して頂きました。今後、ますます異常気象が頻繁に起こることが予想され、「YR晴信」の活躍の場が多くなってくるように思います。作型の栽培特性をご理解頂き安定収入の糧にしていたければ幸甚に思います。



▲103：晴信の慣行栽培(5,050株/10a)と密植栽培区(6,600株/10a)ほとんど変わりなく、密植適性が覗かれた。



▲109：他社品種の密植栽培。玉が小さくなる傾向にある。

表 栽植密度試験(2011年8月5日播種 12月2日調査)

千葉研究農場

品種名	全体重 Kg	最大外葉		葉数	球重 Kg	球大きさ		球形指数	芯長 (cm)	芯太 (cm)	芯長率
		縦 (cm)	横 (cm)			縦 (cm)	横 (cm)				
YR晴信	2.1	38	36	12	1.24	13	20	65.0%	6.5	3	50.0%
YR晴信(密植)	1.86	36	32	11	1.14	12	19.5	61.5%	6.3	2.8	52.5%
他社品種A	2.38	35	36.5	11	1.48	11	21.5	51.2%	6.5	3	59.1%
他社品種A(密植)	1.85	33.5	35	9	1.16	10.5	18	58.3%	6.5	3	61.9%

#### ▼『YR晴信』の作型表

●—● 播種 ▲ 定植 ■ 収穫期

栽培地	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道					●	●	▲	▲	■			
東北・高冷地			●	●	▲	▲	■					
関東・中部 平坦地	●	▲	▲	■			●	●	▲	▲	■	■
九州平坦地	■						●	●	▲	▲		■